

令和6年度 大津市立平野小学校 学校評価書

【評定】 3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった

大項目	中項目	小項目	自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて	
			小項目 評定	中項目 評定	中項目 評定	意見、提言等		
I	主体 深い・ 学対 び話 的	① 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを進めている	3	3	教職員全員で「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行ってきた。そのために校内での研鑽や外部講師の招聘を活用し教職員の研修も実施した。今年度は単元デザインやピクトグラムを基に、子どもたちが主体的に取り組める内容を糸口に授業づくりを行ってきた。その中で、ICTを活用したり、授業集団づくりを促進したりした。今年度までの学びを生かして、来年度以降も教職員の研鑽を深め、子どもの学びへとつなげていきたい。	3	・学級集団によって、各個人の能力を伸ばすことができている。 ・子ども同士のつながりの中で、子どもの能力が伸びている。 ・子ども同士が伝えあう場の設定や発表したくなる工夫など、子どもたちが主体的に取り組める内容の授業づくりができていることが素晴らしい。	校内研究を昨年度までの単元デザインに加え、今年度はピクトグラムを基に、子どもたちが主体的に取り組める内容を糸口に授業づくりを行ってきた。今年度の学びの成果をまとめ、次年度につなげていきたい。教科を限定せずに校内研究を進めてきたが、ふり返ることのできる「軸」を定め、学びを生かしていけるよう、計画・実行していきたい。また、児童アンケートの結果「学習中、質問や意見を発表できる」の項目に課題が見えたため、子ども同士が伝えあう場の設定や、発表したくなる指導の工夫が必要。そのために今年度までのふり返りを丁寧に行い、次年度当初には全体計画を教職員全体で共有し、研鑽を深めるようにしていきたい。
		② 協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図るため、ICTを活用し授業の工夫・改善を行っている	2					
		③ 主体的・対話的で深い学びを追求する研修を実施し、授業に取り入れている	3					
	道徳 教育 の 充 実	④ 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動を実施している	3	2	生命尊重やいじめを許さない道徳的実践力について、学校生活全般を通して常日頃から子どもたちに働きかけることと、道徳の教科書の内容を関連させて指導することで子どもたちに自分のこととして考える機会を与えることができた。道徳科の公開授業では、参観日を活用して全クラスで公開することができた。道徳科の授業・評価に関する研究に関しては、学年団を中心に意見交流、教材研究を行った。今後は学年での振り返りをいかして全教職員で共有する予定である。	3	・生命の尊重やいじめについては学校生活全般について常日頃から子どもたちに働きかけているため、子どもたちにも身についていると思う。 ・平野小学校におけるいじめ事案については耳にしない。これは、児童が明るく学校生活を送れているためであると考えられる。 ・「ローテーション道徳」だけでなく、他の教科にも広げると、授業の質の向上につながる。	道徳的実践力の向上や公開授業については、現状を維持するよう引き続き取り組む。昨年度より取り組んでいる「ローテーション道徳」は、各学年ごとに取り組む工夫し、児童を学年で見守ることで、鼓動理解につながっている。道徳科の授業・評価に関する研究に関しては、現状の取り組みを深化させるとともに、外部講師に依頼する等研修の機会を積極的に設け、指導力の向上に努めたい。
		⑤ 物事を様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究を行っている	2					
		⑥ 保護者等への道徳科の授業公開を行っている	3					
	体 力 づ く り	⑦ たくましい心と体を育てるための魅力ある授業を工夫改善している	3	3	・近年取り組んできた校内研究や安全研修で取り組んでいる教材研究をもとに、学年の単元計画や教材を考えた各学年で共有することにより、単元を細かくイメージした系統的な学習を仕組むことができた。 ・近年の校内研究での授業実践や実際に子どもの視点に立って取り組む安全研修で子ども達の目指すべき姿が共通認識できたり、指導でのポイント、安全面についての配慮を考えたりすることができた。 ・楽しいと思える体育授業のための教材や設定などの研究、委員会や運動会に関わる特活イベントなど、進んで運動に取り組むための環境設備ができている。	3	・運動会や休み時間等で子どもたちを見てみると安全にも心を配って頑張っている姿が見られる。 ・身近にある道具を使って、体力づくりをすることが大切である。 ・児童がのびのびと自己研鑽に努め、体力づくりを工夫する取り組みができている。	・近年の校内研究で得た学びや今年度行った安全研修の取り組みや内容を来年度以降も継続して引き継ぎ、安全面にも配慮しながら楽しい体育活動を行っていく。 ・運動を確保する場所に限りがあるので、その中でも楽しく運動できる活動を工夫して考えていく。
		⑧ 体力づくりを推進する運動実践に取り組んでいる	3					
		⑨ 生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲を育成している	2					
	(組織 的 指 導 ・ 計 画 的)	⑩ 学力向上を目指した指導体制・指導方法を工夫改善している	3	3	・令和6年度全国学力学習状況調査の結果は、全国の平均正答率と比較してみると、国語、算数ともに全国平均を上回っている。 ・情報教育の指導目標に加え、指導計画も新たに作成し、情報教育を継続的に指導できるようにしている。 ・学年の発達段階に応じて、ICT機器をどのように授業に取り入れると効果的であるかを、学年会や職員研修で考え、授業に反映することができた。また、教職員自身の情報モラル向上のために職員研修などを行い、意欲の向上に努めている。 ・今年度も引き続き、各学年の児童の実態や学習内容に応じて、学校生活支援員4名を配置し、きめ細かな対応をすることができた。さらに、ステップ学習(特定の児童に対する学習の個別対応)専属教員を配置し、子に応じた指導を充実させた。 ・web配信システム(Mentimeter)や校務支援ソフト、教員一人一台のタブレット等のハード面、スクールサポートスタッフの週3日の配置によるソフト面ははかり充実してきた。働き方改善シート等を活用した働き方改革は、教職員に定着してきている。	3	・自分で決めたことをやり遂げる力、理解していないところを自分で先生に聞いて最後までやり遂げる力がついているので、継続して頑張っている。 ・児童に応じた学習内容であるため、能力のアップができている。 ・しっかりと学年に応じた学力をつける。そのためには指導方法の工夫が必要であると考えられる。 ・タブレットの効果的な活用ができている。	・昨年度に引き続き、全国学力学習状況調査の結果は良好であった。結果を詳細に分析すると、「自分で決めたことをやり遂げる力」、計画を立てて勉強したりできる児童の比率が高い等の本校児童の強みがあり、「理解していないところを先生に聞いて最後まで取り組もうとする児童の比率がやや低い」等の弱みがあることが明確になった。強みはさらに伸ばし、弱みを改善するため、一人一台のタブレット等のICT機器も活用しながら、具体的な方策を全職員で知恵を絞り確実に推進していく。 ・どの学年にどれくらいまでの力を子どもたちが目指すと良いかを示す目標はあるが、イメージがしにくい所はまだあるため、部会や学年で話し合いを重ね、学校全体で情報教育を進めていく必要がある。 ・ここ数年の取組等により、あらゆる業務について働き方改革を意識した発言が当たり前のようになり、働き方改革の意識が教員の中で浸透してきている。今後も学校行事の見直しや会議内容の精選および適切な時間設定を進めながら、一人一人の教員の働き方に対する意識改善を促進し、質の高い業務につなげていく。
		⑪ 教職員の指導力・情報活用能力及び組織的な教育力の向上に努めている	3					
		⑫ 働き方改革の取組と教育活動の質の改善に努めている	3					
体 験 活 動	⑬ 各種体験活動を計画的・効果的に教育課程に組み込み、充実に努めている	3	3	児童が主体的に活動できるような体験活動を計画してきた。さらに、他教科との関連を意識し、効果的に教育課程に組み込むことができた。夢プロジェクトでは、児童が中心となり、商店街ウォークラリーや産物採集を計画し実施できた。その際、地域の方々や保護者の方々など、たくさんの方に協力していただき、地域のつながりを大切にしたり取り組みを行うことができた。	3	・体験活動を通じて、自分で学ぶ楽しさや達成感を養う力を身につけていると思う。 ・年間計画がしっかりと立てられ、しっかりとした体験活動ができた。	体験活動を通して児童が学ぶ楽しさや達成感を得られるよう、指導計画の見直しや内容の改善を行うとともに、指導力の向上に努める。	
	⑭ 読書環境の整備に努め、発達段階に応じた多様な読書活動への支援を行っている	3						
II	家 庭 携 ・ 地 域 協 働 の 育 ち と 学 び を 支 え る 連 携	⑮ 子育てや家庭教育について、保護者に積極的に支援している	2	3	・子ども支援コーディネーターを中心に、SCや外部の関係機関、巡回相談等を活用し、いただいた助言を生かして、保護者の子育ての悩みを理解し、支援策を講じてきた。 ・学校のホームページ、学校だよりや学年通信等により、情報発信や教育活動の広報に努めた。 ・地域の方々や保護者の方にできる限り来校していただける機会を設定し、じっくりと子どもたちの活動の様子や成長した姿をみていただけるように工夫した。 ・学級指導を含めた避難訓練を年3回実施した。第2回避難訓練では講師事前交番に協力を仰ぎ、不審者が校内に侵入した場合を想定した訓練を実施した。また、児童に危険が及ぶ場合には、登下校の見回りや安全指導などの安全確保に努めた。 ・外部講師を招聘した教職員向け不審者対応研修を実施した。 ・感染症対策として、学校薬剤師指導のもと、教室の窓を対角線上に、高低差をつけた窓の開放を行い、常時換気をしている。また、各教室にCO2モニターを設置し、「CO2の見える化」により子どもへの換気の声掛けに使用している。	2	・すべての面で連携が取れ、地域の方々とのつながりもある。 ・町内の防災訓練に参加を呼びかける。 ・地域によっては、掲示板等はあるが、小学校の状況を知ることができない現実がある。 ・地域との関係が少し薄い。 ・小学校のボランティア委員会との連携による地域との「ふれあい給食」の帯が大変喜ばれている。 ・町内のイベントに子どもたちが参加することで、児童とのつながりも生まれ、顔見知りになることで、地域の中の児童の安全性が高まる。 ・登校時には、地域の多くの方が、子どもの見守りに立っていただけているが、下校時には見守りができていない。負担のかかることでもあるので、なかなか簡単にお願いできず、子どもの安全を確保するため、少しずつでも	・今後も学校全体での支援体制を確立し、必要に応じて、関係機関と保護者をつないでいくような支援を行う。また教員が子どもや保護者から相談を受けた際、気持ちや考え方を整理していくサポートができるよう、カウンセリングの力量を上げる研修を実施する。 ・情報通信機器を活用しながら、学校からの発信力を高めつつ、地域と学校が一体となったよりよい学校運営を模索していけるよう、様々な方法を検討する。また、学校が発信している情報や内容が保護者のニーズと合っているか等、発信の頻度や内容について、常時見直しを行っていく必要がある。 ・常に「自分の命は自分で守る」という一貫した指導を防災教育の中に浸透させ、危機管理マニュアルのPDCA化を図り、保護者や地域と連携しながら安心・安全面についての活性化を図っていく。 ・インフルエンザの感染について今年度猛威を振るっていることから、今後も引き続き感染症対策を全教職員で協議し、継続的に対策を行う。
		⑯ 積極的な情報発信に努め、参観、懇談会、研修会の実施、保護者・地域の人材活用や交流を推進している	3					
		⑰ 防災教育・感染症対策の推進等、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくりに努めている	3					
	保 幼 中 の 連 携	⑱ 子どもの校種間交流や教員の出前授業・保育を実施している	2	3	幼小連携では、今年度も夏休みに平野幼稚園と合同研修会を行い、各園のカリキュラムの説明の後、校種間の教員で交流を図った。また、休み時間を使って、幼稚園の保育の参観に行き、園児の実態や保育者のねらいなどを勉強しに行った。小学校の研究授業に毎回平野幼稚園の教員に来てもらい、授業研究会を行った。1月の入学説明会では、5歳児と1年生が、5・5交流で5歳児と5年生が交流したりしている。今年度も1年生の入学当初は、平野幼稚園と考えたスタートカリキュラムで1年生のスタートがスムーズにされるよう実践を行ってきた。中学校とは、出前授業やタブレットでの学校紹介を通して、中1キャップを少しでも解消できるように進学後の様子を伝えている。また、引継ぎを密に行い、どのように支援していくのがよいか小中連絡会で協議している。打出サミットでも議題を決め、校種間交流を行っている。	3	・入学する園児について、各園とつながりをしっかりと取り、園児や保護者の不安解消に努めている。 ・5・5交流による取り組みによって、新1年生が入学しやすい雰囲気になっている。	前年度の課題にもあげられているが、平野幼稚園以外の保育園・幼稚園とも積極的に交流し、互いの教育に生かせるよう、計画を考えていくべきだと考える。
		⑲ 校種間の合同研修会や授業公開を計画し、実施している	3					
		⑳ 保幼小中の接続期の教育課程の編成等円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究を行っている	3					
	III	生 徒 指 導 体 制 の 充 実	⑳ いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の課題の早期発見と日常的な予防指導を行っている	3	3	いじめ事案に対して、案件の大小にとらわれず、早期発見・組織対応を意識して、常に情報を共有しながら対応することができた。 若手の教員が増えているので、毎週の打ち合わせや職員研修で、生徒指導や教育相談における視点や方法をこまめに伝達することができた。 子育てにおける困り事等があった場合には、スクールカウンセラー・子ども発達支援センター・生活安全課・子ども子育て安心課等に繋ぎ、学校と関係機関が同時に支えられるような体制を作ることができた。	3	・保護者、子どもアンケートにあるように、いじめ対応が充実している。 ・にこにこ集会の充実を今後も進めてほしい。 ・一人一人の個性を大切に育てている。 ・いじめ等の話を聞くこともなく、正しい生徒指導ができていける明るい学校である。 ・保護者は、学校のいじめ対応に大変満足している。
㉑ 生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進に努めている			3					
㉒ 家庭・地域・関係機関と連携しながら指導を進めている			3					
特 別 支 援 教 育 の 充 実	㉓ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用を行っている	2	3	・校内特支委員会を毎月開催し、学年において支援の必要な児童の様子を交流することにより、ステップ学習等の取り出しによる個別対応や中長期的な見直しとして道徳指導教室への接続、さらには特別支援学級入級を視野に入れた関係機関との連携について組織的に対応することができた。 ・低学年で実施している読み書きチェックにより、発達に課題のある児童の早期発見につながり、保護者との連携もできている。 ・個別の指導計画については学級担任によって取り扱いに違いがあったため、校内研修を実施したりチェックシステムを構築したりすることにより改善途中である。 ・教頭、教務の教諭が中心となって、特性のある児童について関係機関と連携を図ってきた。今後は、特性のある児童が自分の持ち味を生かしながら授業に参加できる姿を目指したい。	3	・特別支援学級の保護者の気持ちに寄り添うことが大切。 ・校内特支委員会における早期の問題解決が大切。 ・子どもが学校に来やすい雰囲気ができている。 ・一人一人に子どもに対してきめ細かな授業をしている。 ・様々な子どもがいる中で、個人に合った行事を取り組み、全員が授業に参加できるように考えている。	・管理職のリーダーシップで、より計画的組織対応ができるように、今後も校内委員会の継続的で積極的な働きかけを行ってほしい。 ・個別の指導計画の作成・活用や支援の必要な児童への適切な対応等について、計画的に研修を実施していく。また、今年度の反省を生かして1年を通して指導計画をチェックしていけるシステムの完成を目指す。 ・関係諸機関との連携を進める中で受けたアドバイスを、担任が個に応じた合理的な配慮や支援策に生かせるような環境整備等を推進していきたい。今後も、特性を持つ児童が有意義な学校生活を送れるよう努めていきたい。	
	㉔ 組織的・計画的な特別支援教育体制を確立している	3						
	㉕ 関係機関と連携した教育相談の充実を図っている	3						